ＪＲ東海労なごや

2016年1月7日 No.1059
ＪＲ東海労名古屋地方本部
発行者： 山 田 哲 也
編集者： 教 宣 部

ＪＲ西日本でヒューマンエラーを懲戒処分の対象外とする制度を導入

昨年、１２月４日に多くの新聞紙上で「ＪＲ西日本では乗務員の人為的なミス（ヒューマンエラー）を懲戒処分の対象外とする制度を近く導入する」ことが報道されました。ＪＲ西日本は事故やトラブルが起きた際に運転士らがミスを隠蔽するのを防ぎ現場から正確な報告を促すことなどが目的としています。

ＪＲ西日本ではすでにオーバーランは懲戒対象から外れている模様です。同様の制度は、航空業界で先行しています。０７年に導入した日本航空では現在、以前よりかなり多い年間数千件のミス報告があり、再発防止に役立てられているといいます。ＪＲ西日本会社によると、鉄道業界では初めての試みとしています。

JR西日本発表の「重大事故の未然防止に向けた更なる報告文化の醸成について」の中で①「鉄道運転事故」「輸送障害」「注意事象」のうち十分注意していたにもかかわらず発生した「ヒューマンエラー」は処分、マイナス評価の対象としない。②報告文化醸成の取り組みでは報告を提出しやすい環境作り、フィードバックの充実などが記載されています。

全く逆のＪＲ東海の現実～これで安全文化は確立するのか

一方、ＪＲ東海では２００５年に減った日勤教育が日勤再教育という名目で大幅に日数が増加しています。オーバーランで２か月の日勤再教育も行われた例もあります。「迅速かつ正確な報告」ができていないと大きなペナルティーを受けます。また、報告書を提出すれば内容についてチェックが入り、少しでも取り扱いが間違っていればペナルティーです。報告文化醸成どころか、恐怖により報告を強いて責任を追及しているのが現状です。

安全は責任より原因と言われて久しいですが、個人に全ての原因を押しつけ責任をとらせているのがＪＲ東海会社の姿勢です。

Ｊ西日本の新制度は、罰を恐れた焦りによる事故防止にもつながります。１０年先には大きな安全文化の差が生まれるでしょう。確率的に発生するエラーの真の原因を見つけることこそが、今一番大切なのではないでしょうか。